

令和2年(2020年)度事業報告

社会福祉法人 大喜福祉会

	毎月開催	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
社会福祉法人 大喜福祉会			監事監査	理事会 評議員会(主任合同)						理事会 評議員会		理事会	理事会 評議員会(主任合同)
特別養護老人 ホーム喜楽苑	誕生日会		入所判定委員会	オンライン面会開始	サービス相談委員会	夏祭り	放生会 サービス相談委員会	入所判定委員会	サービス相談委員会		サービス相談委員会 新年会		サービス相談委員会 おとな先生
ユニット	誕生日会		入所判定委員会			サービス相談委員会	敬老会 サービス相談委員会	入所判定委員会	サービス相談委員会	クリスマス会	サービス相談委員会	節分	サービス相談委員会
医務室	体重測定			入居者血液検査	入居者尿検査	入居者胸部レントゲン検査			インフルエンザ予防接種 (入居者)	入居者血液検査 インフルエンザ予防接種(職員)	入居者尿検査		
デイサービスセンター 喜楽苑	誕生日会・できたておやつ 生きがいサロン・体重測定 運動教室・製作活動	園芸活動 施設長講話	屋外クッキング 園芸活動	施設長講話 お楽しみ会(ボランティア)	七夕祭り	施設長講話 スイカ割り ブラネタリウム	くいちDVD観賞 敬老会(ボランティア) GOTOトラベル	野外活動(くいち・ハラ見学) 施設長講話・園芸活動 福祉まつり出品	野外活動(案山子) 作品展(苑内)	門松づくり お楽しみ会 施設長講話	高塚リモート	節分 施設長講話 うめ見学	ひな祭り展覧会 花見ウォーキング お茶会
ホームヘルパーステーション 喜楽苑													地域ケア会議
多機能ホーム「きららの湯」	買い物 できたておやつ 制作活動		運営推進会議 園芸活動	園芸活動 小規模ひた連絡会		運営推進会議	小規模ひた連絡会	大分県小規模連絡会	運営推進会議 小規模ひた連絡会	クリスマス会	小規模ひた連絡会	小規模ひた連絡会	運営推進会議
介護保険サービス センター喜楽苑	ケアマネ会議・ケアマネ研修 主任スキルアップ研修 情報共有会議								他居宅合同事例検討会 勉強会				
日田市南部地域包括 支援センター	職種別会議 ケアマネ勉強会・相談会 主任ケアマネスキルアップ研修		ランチ合同会議					ランチ合同会議 地域ケア個別会議					地域ケア個別会議 ランチ合同会議
給食	できたておやつ	桜見行事食	端午の節句行事食 母の日の行事食	父の日の行事食	七夕行事食	海の日の行事食	敬老会(お弁当)	ハロウィン行事食	文化の日の行事食	クリスマス行事食	おせち料理(お弁当)	節分行事食	桃の節句行事食
委員会会議等	リーダー会議 各部署職員会議 各種委員会・苑内研修												新採用就職説明会
施設外研修	主な研修を抜粋			給食担当職員研修	久大ブロック施設連絡会総会	認知症ケアハンディ養成研修 新入社員フォローアップ研修	新任職員研修	モチベーションマネジメント研修 包括ブロック別研修 新任職員研修	コミュニケーション向上研修 キャリアアップ講習	プロ意識醸成研修	アンカーマネジメント研修	久大ブロック施設連絡会	効果的な部下・新人 育成の実務研修 県老協総会 能力開発啓発 キャリアアップ講習 介護報酬改定研修 主任ケアマネ研修
その他	口腔ケア指導 市介護相談員 喫茶きら(月2回)	施設内新人職員研修 職員面談 喜楽苑だより発行	家族会役員会	ブルーベリー収穫祭 消防点検 地域ふれあい懇談会	喜楽苑だより発行 水質検査	職員健康診断(8/4) 貯水槽清掃	上半期部署会議	献血 職員中間面接評価		水質検査	消防点検 喜楽苑だより発行	夜勤業務者検診(2/3)	職員最終面接評価 浄化槽清掃・水質検査 下半期部署会議

令和2年度 社会福祉法人大喜福社会 喜楽苑 事業報告

【 特別養護老人ホーム 喜楽苑 従来型 】

優しい態度と言葉づかいでプロ意識
心配りのできる人を目指す
統一ケアで事故入院者ゼロ

今年はコロナ過にて年間の主な行事や外出・面会等が実施できなくなる一方、それに代用するイベントやオンライン面会や家族への手紙等工夫を凝らした行事が行えた。オンライン面会を機に職員間の情報共有ツールとしてLINEも機能してきた。寝具の改善やサポートベッドの導入・車椅子の追加購入により設備に関して充実が図れた。

当初から予定していたスライディングボードの活用に向けた職員研修の実施もでき、基本的な移乗方法の確認も行いながら機能訓練員主導のもと1年かけて取り組めたことは、成果として大きく、達成感も得られた。現在スライディングボードの使用入居者は2人介助対象者を含め6名である。スライディングボードの使用をきっかけに基本的な移乗方法の実施によって表皮剥離の事故件数は減少に至っている。

【 特別養護老人ホーム 喜楽苑 ユニット 】

1. 危険予知力を高め事故防止に努める

- ・観察力や気付く力を養い、危険予測ができるようになる
- ・班会議での事故検証の内容を深め、事故を防止する

下半期に骨折で入院となった事故が2件あった。自分で動く方であり、防ぐのも難しい状況であったが、できる方だからという職員の油断や思い込みからくる見守り不足も原因と思われる。夜間帯の事故は、見守りセンサーの録画映像を見ながら、職員一人一人に確認してもらい事故検証を行った。事故の状況が分かるようになり、検証や職員間での周知がしやすくなった。今後も優先順位を見極め、危険を予測し事故防止に努めていく。

2. 丁寧な介護で入居者の満足度を高めよう

- ・スキンケア、口腔ケアを充実させる
- ・細やかな配慮で、快く過ごせる環境を作る

食事前の手拭きや消毒、排泄時の陰部洗浄等定着してきた。食事前の口腔体操も職員によってやり方はさまざまだが、ほぼ毎日行えるようになった。口腔ケアも歯科衛生会議の時や各フロアに注意点を掲示し周知を図っている。髭剃りや保湿についてはまだ課題がある。コロナ禍であり、面会や外出もままならない状況でのストレスの緩和を考慮し、行事や日々の活動に取り組む職員も増えてきた。

【 医務室 】

「体調管理と事故防止に努め入院者ゼロを目指す」

口腔ケアの徹底で誤嚥性肺炎を予防する。
ポジショニングの徹底で拘縮による骨折を予防する。
服薬事故をゼロにする。

口腔ケアへの介入は意識的に行うよう心掛けていたが、十分とは言えなかった。今後も継続し介入をしていきたい。ポジショニングについては、介護職員も含め意識の低下が感じられ、徹底を図ることができなかった。上半期は服薬事故が続き、大きな反省点となった。その都度、服薬ミス防止対策を検討し取り組むことで事故やヒヤリハットが減少した。今年度は入院者が16名と多く、中でも脳疾患による入院が5名、骨折が2名であった。多職種との連携をより強化し入居者の健康管理を充足させるよう取り組みたい。

【 調理 】

1. 安心・安全な食事提供に努める。

下半期は、異物混入や配膳ミスが多く発生した。その都度、原因について話し合い対策を具体的に講じ取り組んでいる。委託会社の指導担当者に協力を得て、給食員の指導や現場の把握を行ってもらっている。今後もコミュニケーションを密にし、安全な食事が提供できるように取り組んでいく。

2. 多職種と連携し栄養ケアの充実を図る。

食事の観察（ミールランド）を行うことで、多職種と共同して入居者の摂取状況や嚥下機能など栄養状態の変化を早期に把握し、対応することができた。来年度の介護報酬改定に伴い栄養ケア・マネジメントの強化が求められる。入居者全員への丁寧な栄養ケアの実施ができるように努めていく。

【 事務室 】

1. 積極的に明るい笑顔で挨拶をする

利用者・ご家族・地域の皆様との関わりを大切にし、明るい挨拶を心がける。臨時窓口から来られる方へ素早く対応できるように心掛けたが遅れることがあった。一年中マスク着用での対応だった。笑顔や声のトーンにも気を付けた。今後も気を緩めることなく事務所内全体でスムーズな対応に努めていきたい。

2. 疲れにくい体づくり

休暇取得や「ちょこトレ」等を実践し、心と体の健康増進に努める。

*大分県西部保健所ホームページより～働く世代向け運動プログラム動画

休暇は、毎月計画的に取得できている。上半期はウォーキングコースを通勤時に活用できていたが、下半期は行えなかった。ストレッチなどには継続して取り組めなかったため、今後は気候が良くなるのでウォーキングコースの活用や心身の健康にも取り組んでいきたい。

【 多機能ホームきらくの湯 】

「家族も安心在宅生活」

1. 利用者・家族・地域の方との関係改善・信頼関係を深める

2. 食生活の改善・低栄養予防

3. 多職種で自宅訪問を行い情報の共有、状態の悪化を防ぎ在宅生活を支える

後半は、訪問サービスを更に充実させようと全職員で取り組んだ。「訪問サービス」については充実してきたと評価する。病院関係者や他法人居宅からの問い合わせもあり同法人居宅や包括からも「訪問してくれるなら」と紹介も多くなってきた。コロナ感染予防を行い、地域に出向いての地域交流を実現し、他事業所へ自信を持ってアピールできる多機能ホームきらくの湯へと進化して行きたい。

【 デイサービスセンター喜楽苑 】

1. 「和顔愛語、先意承問」～和やかな顔・思いやりの言葉で人に接し先に相手の気持ちを察して何をすべきかを考え対応する

2. 「日々好日」～連携とチームワークを図り自立支援のための関わりに努め、在宅生活の維持を目指す

3. 「目配り・気配り・心配り」～多職種連携により利用者個人の有する能力と可能性を引き出す・尊重する・強化

コロナウイルスの感染防止策を講じながら、利用者と家族の不安を受け止めそれぞれの要望に柔軟に対応してきた。コロナの痛みからさまざまな気づきを得て、利用者の立場に寄り添い相手の気持ちになって考え行動する事を意識し対応する事が出来た。

常に笑顔で利用者の変化に気づき、職員間での共有・検討・解決に繋げている。しかし、職員本位になっている面もみられるため、利用者との関わりを優先出来るように業務の工夫や一人一人の意識、行動を見直す必要がある。今後も常に笑顔で思いやりの言葉で接し、相手の気持ちに寄り添えるように努力したい。

また、コロナ禍の影響を受けても常に自宅での生活が継続できるように、自立支援に向けて趣味活動、リハビリと活動を広げ創意工夫ができた事で「今日も楽しかったよ」と笑顔で喜んでいただけた。利用者・家族共に連携を取り確認しながら信頼を得ている。さらに一人一人が優先順位と安全を考え、行動出来るように意識向上に努めたい。ご本人が好きな事は出来るだけ長く続けられるように支援して、その人らしく過ごしていただきたい。そのためにも職員間・多職種で共有し、取り組んで行く体制を継続していきたい。

【 ホームヘルパーステーション喜楽苑 】

1. 報・連・相を密に行う。

ヘルパー間で情報交換して、体調不良や変化があった場合は早めの対応を心掛ける。他事業所への連絡にも繋げる。認知症がある方は体調や症状の進行などにより対応の仕方が頻繁に変わるので、連絡ノートで情報共有できたり毎月の会議の中で意見を出し合ってその都度対応できた。認知症が進行して訪問回数の増えた事で様子がよくわかり、他事業所にも情報提供ができた。

コロナ禍で遠方にいる家族が帰省できなかつたりするので、利用者の不安感が増し今まで以上に会話が必要になった方もいたのでヘルパー間で情報共有を密に行った。

2. 健康に気を付けてよく笑う。

利用者に笑顔で挨拶をして声掛けをする。意識しながら個々に合った運動を取り入れて体を動かし笑う。

常にマスクを使用していて、表情が分かりにくいので笑顔での対応は心掛けている。ほとんどの職員は運動が出来ていない事や体調不良で入院する職員もいたので各自が健康の大切さに改めて気付いた。

3. 時間を守る。

個々により訪問時間の違いはあるが、出来る事は声掛けして一緒に行う。

手順書に従ってケアを行い、時間内に終わるように工夫をする。

個人差やその日の体調もあるが、声掛けして野菜の皮むき・カット・味見や片づけや洗濯物たたみなど出来る事は一緒に行う事が出来た。個々の体調で手順書通りにいかない事もあり時間が足りなくなることもあった。

【 介護保険サービスセンター喜楽苑 】

1. 笑顔でおはよう！笑顔でお疲れ様！

部署内で笑顔であいさつができチームワークを取りながら業務が行えた。

他部署や訪問先においても笑顔で対応ができ、良いあいさつで仕事の意欲も高まり、笑顔で終業できた。

2. ストレスに負けないメンタルづくり

部署内の雰囲気は良く、気兼ねなく話せる関係性で業務をすることができたと感じる。利用者や家族への対応でリスク管理等対処ができていない部分がありストレスがかかることがあったため、反省を活かしながら対応の改善に取り組みたい。

高い専門性や知識が必要となるため、介護支援専門員としての自信をつけることが難しく、十分でないという自己評価が見られた。

【 日田市南部地域包括支援センター 】

相談しやすい雰囲気づくりに取り組む

～住民から信頼される真摯な対応を心掛ける～

地域のネットワークづくりを進めるため、自治会長会や地域の集まりの場に参加し働きかけを行なった。

また、介護予防の視点から様々な機会を通し「週1通いの場」立ち上げのアプローチを行い、本城迫の久保地区が開始予定となる。

ケアマネ支援としては、ケアマネに対しコロナ禍での対応方法の情報提供、ケアマネからの相談対応や地域資源の紹介等を行っている。

その他、一般相談・困難事例の対応や講話等の業務にあたった。